

## 地域住民の医療不安解消に向けて

総務省の「過疎地域の社会的価値に関する調査研究報告書」によれば、全国の住民が考える「過疎地域に対して必要な支援や対策」の1位は「医療・福祉サービスの充実」である（過疎地域の住民のうち58.4%、非過疎地域の住民でも52.1%が必要と回答）<sup>1</sup>。また、東北活性化研究センターの2022年度調査「東北圏における移動困難者・買物困難者対策としての新たな移動支援サービス等に関する先行事例調査」を進めるなかで、多くの交通網は医療施設を重要地点にして整備されていることや、住民にとって「医療施設に便利に移動したい」というニーズが大きいことを現地調査を通じて実感してきた。

医療の不安を解消できなければ、地域住民の流出や高齢者の孤立がますます顕在化し、地域コミュニティの崩壊、地域消滅がさらに進むことが懸念される。

本特集ではまず、東北圏の地域医療が置かれた状況や抱える課題について、データや文献調査等に基づき示す。次に、日本全体を俯瞰した視点、地方自治体の視点、研究者の視点、現場の医師の視点から、地域医療の維持に必要なものは何かを寄稿いただいた。

寄稿者	寄稿タイトル
九州大学 名誉教授 尾形 裕也 氏	日本の地域医療の課題及び将来像
仙北市西明寺診療所 所長 市川 晋一 氏	仙北市の地域医療の現状と課題 ～地域住民の医療不安解消に向けて～
滋賀大学 経済学部 教授 佐野 洋史 氏	大都市の内科系勤務医が重視するべき地の勤務条件は何か？ ～医師の地域偏在の解消へ向けて～
医療法人社団やまと 理事長 やまと在宅診療所 院長 田上 佑輔 氏	都市と地方をつなぐ持続可能な医療体制の構築 —宮城県登米市における地域医療の取り組みとその成果—